

説 教

Open Church 礼拝 北浜チャーチ

2022年3月20日（日）

主 題：「お宝発見の人生！」

一宝はどこに—

テキスト：コロサイ人への手紙2章3節

はじめに

- ・春が近くなりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？
- ・私たち人間は時として、「あの人の性格は明るいとか、暗いとか」とか言いますね。最近の医学の研究で、人間の心と光には関係があることが分かってきました。
 - {例 話}
 - ・北極に近い北欧諸国（フィンランド、スウェーデン、ノルウェー等）は、夏場は白夜となりほとんど暗くなりません。逆に冬場は、日照時間が極端に少なくなります。フィンランドでは最近の温暖化現象によって、日照時間に変化が出てきました。
 - ・冬場に太陽が顔を出す時間は、平均して5時間から6時間だそうです。しかし、太陽が顔を出すとんでも、朝日がサンサンと輝く明るさではありません。日本の夕暮れ時に、西に夕陽が沈みかけるぼんやりとした明るさです。
 - ・年によって違うようですが、フィンランドでは日照時間が例年の半分以下（数時間）になることもあるそうです。それは、どんな冬か想像してみてください。
 - ・そういう国では、残念ながら「うつ病」の人々が増えるそうです。
 - それを⇒ 「季節性感情障害」(or「冬季性うつ病」)と呼ぶそうです。
 - ところがその治療は難しくないそうです。太陽の光が多い国（スペイン、南フランス）へ転地療法することです。
 - ・季節性感情障害を持つ方が、太陽の光を浴びると直ってしまいます。つまり人の体、あるいは心の状態は光と関係があることが分かってきました。
 - 関西医科大学の木下利彦教授は、この分野を医学的に研究されました。木下教授は、「人間は光を浴びると、脳内にセロトニンという物質が出てきて、これが人の体と心に元気を与える（ライト・セラピー：「光療法）」、と語ります。
 - ・人間にとって最も大切なことは、やはり健康です。健康こそ、最も大切な宝ではありませんか。健康さえあれば、どんなことでもできるからです。健康は確かに宝です。健康には大きく分けて身体的な健康と心の健康があり

ます。コロナ禍で、現在は心の健康が問題となっています。心が病み、心が痛み、心が疲れてきますと、心が病んできます。残念ながら、その人数は多いのです。では、私たちが健康に生きるには、どうすれば良いでしょうか。

- ・ イエス・キリストは：「わたしは世界の光です」と言われました。この光は光源（phos:フォス）を表す単語です。光源である「光」を浴びることは健康につながります。ですから、光である方と交わるならば、心が元気になります。
- ・ 教会に来て神を礼拝し神を賛美することによって、また聖書のみことばのシャワーを浴びることによって、心が元気になります。それは、光である方にお出会いするからです。
- ・ ところで、私たちは今日の聖書テキストから、私たちの人生について考えてみたいと思います。題して「お宝発見の人生！」です。2点

大切なポイント

1. 聖書は宝庫である

1) 聖書

- ① 聖書はじつに不思議な書物です。聖書は旧約聖書と新約聖書から成り立っています。イエス・キリストの誕生以前（つまり紀元前 BC）と、その後（すなわち紀元 AD）です。前者の記録が旧約聖書。後者の記録が新約聖書です。皆さん、イエス・キリストという一人のお方の誕生によって世界の歴史は二分されました。皆さんは、不思議に思いませんか？
 - ・ それはこのお方（イエス・キリスト）は、世界史を二分するほどのお方であるからです。私たちは世界史を二分するほどのお方イエス・キリストを、どれほど知っているのでしょうか？ いや、もし知らないならば、大損してしまいます。イエス・キリストを知るということは、それほどの内容があることです。
- ② 次に聖書は何について書いてあると思いますか。どのような本であっても必ず、目的があって書かれます。聖書はイエス・キリスト（目的）について書かれています。
 - ・ 紀元前の時代は、イエス・キリストを前に置いて書かれました。それが旧約聖書です。紀元に入ると、今度はイエス・キリストを後方に見て書かれました。それが新約聖書です。ですからイエス・キリストは、旧約聖書と新約聖書の間であり、しかも中心です。この聖書の中心人物であるイエス・キリストに、全てものが隠されていると、聖書は述べています。
「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2 : 3

2) 知恵と知識

- 聖書はこのように書いていますが、「知恵」と「知識」は、人が生きるための巨大な財産のことです。それは私たちにとって「宝」です。宝とは最も大切な、価値あるものです。神は、私たちにその「宝」を与えようとされています。素晴らしいことではありませんか。神を信じる人の人生は、「知恵と知識の宝」を探す人生とも言えましょう。
- まず知恵と知識の定義について、聖書から考えてみましょう。
「知 恵」：天来の創造神から与えられるもの（天的レベル）
「知 識」：学問の知識ではなくて、先人たちの生きた証し（歴史）
- 聖書は66の巻物からできています。そこには知恵と知識の宝が秘められています。新約聖書のローマ人への手紙は次のように述べています。
「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。」
〔ローマ 11:33〕

3) 聖書教育

- ところで、聖書を知る上で大切なことは、神が天地を創造されてから、一つの民（ユダヤ民族）をお選びになられたことです。そして神はユダヤ民族との関係について、さまざまな計画を表されました。旧約聖書はそれについて記しています。
- ユダヤ教はその旧約聖書、とくにははじめの5つの巻物（創世記から申命記）を主に経典としています。彼らは教育のすべてを、この5つの巻物から教える学んでいます。それは神学、数学、文学、科学、心理学、社会学、哲学、法学、政治学、経済学等の多方面です。
- 最近、とくにユダヤの教育が注目されています。
たとえば、中東の小国であるユダヤ人国家イスラエルは、コロナ禍でも、コンピューターや、AI(人工知能)は世界の先端を行っています。ノーベル賞受賞者数も、ユダヤ人は他の民族に比べ圧倒的に多いことは明らかな事実です。いったいなぜでしょうか。
- それは彼らの教育の原点が、旧約聖書にあるからです。聖書には、知恵と知識の宝が秘められているからです。話は少し脱線しますが、ここに日本のビジネス界や研究者はイスラエル（ユダヤ人）に深い関心を持っています。日本各地でセミナーや講演会が盛んに開かれています。なぜでしょうか？
それは一般的に次のような理解されているからです。
- 「ユダヤ人はゼロから1を生むのが得意である。日本人は1から10を生むの

が得意である」。そこでユダヤ人と日本人が手を結ぶならば、ビジネス界でも研究分野でも大きな成果を期待できるからです。

- ・確かにユダヤ人は創造性に富む民族です。世界をリードできる民族です。それは彼らの教育は旧約聖書にルーツがあるからでしょう。
- ・ところで、コロサイ人への手紙が書かれた時代は、紀元59年から62年とされています。著者パウロはその頃、イエス・キリストを伝えたために捕えられローマの獄中にいました。その頃、コロサイ教会には、グノーシスという誤った思想、哲学、また禁欲主義的なイデオロギーが入り込んできました。
- ・コロサイ教会の信徒はその影響を少なからず受けました。信者の中で、信仰が不安定となり、不道德な者も現れてきました。パウロは、そのような状況下でこの書簡を書き送ったと思われます。そこで彼は次のように記しました。
「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2 : 3

4) 比類ない民族

- ・では、その「宝」のルーツをもう少し考えてみましょう。
ユダヤ教の教えに、「腰をかがめなければ、真理を拾うことはできない」という「ことわざ」があります。これは、人は謙虚でなければ学ぶことができないという意味です。
 - ・しかし日本人も勤勉で向上心の旺盛な民族です。ところが、そこには大きな違いがあります。
- ・相違点はユダヤ人は、世界に比類がない「安息日」を持つ民族であることです。安息日とは神が定められた休息日のことです。神は7日からなる1週間を造り、その最後の日である土曜日を「安息日」(シャバット)と定められました。創世記は次のように記録しています。

2:2 それで神は、第七日目に、なさっていたわざの完成を告げられた。すなわち、第七日目に、なさっていたすべてのわざを休まれた。

2:3 神はその第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。
- ・出エジプト記20章では、十戒の第4戒で次のように書かれています。

20:8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

 これが聖書の教える安息日です。話は変わりますが、私たちは休日というと、疲れやストレスを発散するための効果を期待します。したがって、休日にはゴルフや旅行など「外」に向けた活動をする人が多いものです。
- ・一方、ユダヤ人たちの安息日は逆です。休日は家にいて家族と過ごす日です。

なにより“自分”と過ごす休日なのです。休日は、静かに自分を見つめ直すための時間です。ここに礼拝の奥義のひとつが秘められています。つまり、内側を見つめ反省するための時間です。

- ・自分と向き合うことを説く宗教は、他にもあります。例えば、仏教でも座禅を組み「黙想」する道があります。しかし「シャバット」（安息日）という特別な日を創ったのは、聖書の神だけです。すなわち、神はユダヤ民族を通し安息日（シャバット）の真意を教えています。
- ・イスラエルでは今日でも、安息日は公共機関の交通手段は全面ストップとなります。すべての労働は禁じられているからです。正統派ユダヤ教徒は、今日でも安息日には料理や農作業や仕事などをいっさい行いません。
- ・では安息日とはどんな日でしょうか？ ⇒「聖なる日」
 「聖」：ハギアゾー〔ギリシャ語〕とは、神の本性です。それは「1点のしみ、汚れもない聖さで、他の何も横に置くことができないきよさです」。それは神の栄光が現される「聖・きよさ」んことです。神は安息日を、そのような聖なる日としなさい、と教えています。
- ・ですから、彼らにとって安息日はとても意味深いものです。

① 「安息日は解放の日」:

安息日は束縛の日ではなく、労働からまったく解放される日です。安息日は人が解放される「心の安息日」です。

- ・経済学者は、「ゆったりと間隔を空けて、注意深く仕事の休みをとると、明らかに生産性は増加する」と語ります。

② 「安息日は喜びの日」

- ・神が創造された大自然という被造物を見て感動を覚え、喜ぶ日です。さらに素晴らしいことは、私たち人間は世界でただ1人しかいない自分を造ってくださった神を覚える日でもあります。しかも神は私を愛しておられるお方ですから、愛する神を喜ぶ日です。

③ 「安息日は勝利の日」

- ・イエスは言われました。

16:33 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」ヨハネ

- ・このように安息日を覚える民族と、そうでない民族には違いがあります。安息日は休息をとり、神にあって自分と向き合う日です。ここに神を信じる者と、そうでない者との違いがあります。このように安息日に休息をとっても、

世界中から注目されています。

- 皆さん。もうお分かりでしょう。

彼らには宝である聖書があることです。聖書での「宝さがし」は、シャバットから始まります。なぜなら、そこで ⇒神にお出会いするからです。

- 出会いなくして発見なし！ シャバットは、神に出会う機会を得ることです。ここに、私たちは注目しなければならないポイントがあります。

聖書、イザヤ書42章をお開きください。

42:6 「わたし、【主】は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握る。あなたを見守り、あなたを民の契約として、国々の光とする。

では、もう少し掘り下げてみましょう。

2. お宝発見の人生

1) 12年の長血の女性

- 聖書には、イエス・キリストに出会った人々が登場します。その中で12年も長い間、出血し病んでいた大変気の毒な女性がいました。ルカ福音書8章に次のように記されています。

8:43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人があった。

8:44 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。すると、ただちに出血が止まった。

8:45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。大勢の人たちが、あなたを囲んで押し合っています」と言った。

8:46 しかし、イエスは言われた。「だれかがわたしにさわりました。わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。」

8:47 彼女は隠しきれないと知って、震えながら進み出て御前にひれ伏し、イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話した。

8:48 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

- 彼女は長年、体から大切な血液が出血しつづけていました。しかもそれが止まらない病でした。ユダヤ社会で、この病気には特別な意味がありました。

- ① 不義(汚れ)
- ② 本人の罪の結果

③ 社会的差別を受けた

2) 12年長血を患った女性の行動

- ・彼女には他に頼れる人はいませんでした。完全に見放されていた女性でした。しかし、この彼女から教えられることがあります。

① 彼女は、イエスの着物のふさに触れ、自分の真実を打ち明けました。そこからイエスとの個人的な交わりが生まれました。

② 彼女はイエスを信頼しました。そこで

- ・イエスは、「あなたの信仰があなたを直した [救った] のです」(48 節) と言われました。彼女は救われました。

- ・では、何が彼女を救ったのでしょうか？ ⇒ 彼女が具体的にした行動は、イエスの「衣のふさ」に触れたことでした。しかし、その「衣のふさ」触れたという行為こそ、彼女が救われた道でした。それは、どんな意味でしょうか？
「着物のふさ」⇒ 聖別のしるし 民数記にはこう書かれている。

15:37 主はモーセに告げて仰せられた。

15:38 「イスラエル人に告げて、彼らが代々にわたり、着物のすその四隅にふさを作り、その隅のふさに青いひもをつけるように言え。

15:39 そのふさはあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、主のすべての命令を思い起こし、それを行なうため、みだらなことをしてきた自分の心と目に従って歩まないようにするため、

15:40 こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行ない、あなたがたの神の聖なるものとなるためである。

- ・すなわち、彼女が「衣のふさ」に触れたことは、聖なる方に触れたことでした。彼女にとっての宝はまず健康でした。イエスにタッチすれば、時分の病気は癒されるという信頼（信仰）を持っていました。そして健康という「宝」を自分のものにしました。

⇒ 彼女は信仰をもってイエスに触れました(実体験)。なぜなら、

「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。」

コロサイ 2 : 3

- ・彼女にとっての最高の宝、それは何よりも健康であったでしょう。いかがでしょうか。どうすれば、私たちは宝を発見できるでしょうか？ それは、まず宝を与えてくださるお方イエス・キリストを知ることです。
- ① まず聖書を知ることです。それは、「宝」を発見するはじまりです。
- ② 次にイエス・キリストに触れること（出会う）です。それが「宝」を発見する人生です。具体的に言えば、聖書を開いて読み中心のイエス・キリストを知ることです。

- ・聖書の中心であるイエス・キリストはすばらしいお方です。
私たちはコロナ禍にあっても、「前向き」の姿勢（信仰）を持ちましょう。
そして宝であるイエス・キリストに触れてみようではありませんか。

ま と め

テーマ：「お宝発見の人生」

—宝はどこに—

- ・キリスト・イエスによって罪が清められ、救われた人は、光の子とされます。
なんといい幸いではありませんか。私たちが有能で勝っているからではありません。
創造神の前では何も誇れるものはありません。
- ・しかし聖書を開き、聖書を読むことから、「宝さがし」は始まります。
そして真の宝に与ることができます。
「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。」
コロサイ 2 : 3
- ・いかがでしょうか。あなたも、「宝探し」をお始めになりませんか。

* God bless you!